第 10 回

島根県警察 トップセミナー

「衣食住が足った後の警察の役割」

〈講師〉

小松電機産業株式会社
代表取締役社長
小松昭夫 氏

この原稿は、平成8年9月2日、警察本部において講演された記録を、御本人の校閲を得て、掲載するものです。

「衣食住が足った後の警察の役割」

はじめに

ただいまご紹介いただきました小松電機の小松でございます。本日はお招き頂きまして大変ありがとうございます。実は最近、ここの本部長さんの官舎の前に、迎賓館と研修所を兼ねて「太陽の館」というのを作らせていただきました。まだオープンはしておりませんけれども、警察と縁が近くなったかなというような感じもいたしております。

一　本当の生活大国とは

さて「衣食住が足った後」というお話ですが、「衣食足って礼節を知る」という言葉があるように、人間は高尚なことを言っていても食えなければ始まりません。ですから明治政府は、まず国民の衣食住の充足と生命の安全を守ることを目指して「富国強兵」という国家目標を掲げ、一目散に走ったのです。

それが足った後は、方針を変えなくてはいけません。人は皆、衣食住が足りると生まれてから死に至るまでのプロセスを楽しく愉快に暮らしたいと願います。そこで、楽しく愉快に暮らせるような国家の仕組み、あるいは地域の文化をどう作るかが問題になるわけです。

一時「生活大国」という言葉が巷でもてはやされました。最近あまり聞きませんが、「生活大国」とは何かというと、国民の大半が楽しく愉快に人生を全うできるような国家であると私は考えます。そこで重要なのが、どういう時に人間は楽しいのかということです。

私の村に面白い話があります。あるおじいさんが臨終の床で、人生で一番楽しかったのは何かと聞かれて「隣の家ばかり良くなるので面白くなかったが、ある日大風が吹いて、作ったばかりの隣の立派な塀が倒れた。あの時は本当に楽しかった」と言って、そのまま息を引き取ったそうです。

何故こういうことが起きるのか。最近二十七万部のベストセラーで「人間を幸福にしない日本というシステム」（カレル・ウォルフレン）という本があります。売り出し中の若手政治家達がバイブルのようにして読んでいる本です。是非、一度読んでみて下さい。

二　思考力を高める方法

私は仕事柄、国内はもとより海外へもよく行きます。つい先日もボストンで「ワン・ピース・ワールド」と

いう、世界平和を食べ物を通じて考える世界大会があり出かけてきました。世界から一千名の方が集まり、国連の人も来ておられました。また一昨年は、「縁結び全国大会」というのを私が提唱して、松江で開催したほか、去年は世界大会を、世界から三十人の方を招いて開催しました。

どうしてこういう大会ができたのかといいますと、一昨年、初めて官民合同で勉強会を開いたのがきっかけです。これは、さらに今から八年ほど前、八雲村の私の会社の「修道館」という建物の落成を兼ねて、知で社会を改革するという意味の「知革塾」という塾を、県下の町村の若手経営者を集めて開いたことに始まります。その後毎年、発展的に続けられていたのですが、一昨年、マンネリになってきたということで、官民合同でやろうと私が提案し、県にも働きかけて、県下の町村の若手経営者と、役場の企画担当者のそれぞれ四十名ずつ、計八十名を集めて、これからの国際化時代におけるこの地域の役割というテーマで、私の人脈で各界の先生方を呼び、ひとつのコンセプトにまとめて勉強会をやりました。

この勉強会は「二回ひねり」という方法で行いました。どういう方法かといいますと、七人ずつのグループを作り、その中は官と民を三人と四人にして、年代もばらばらにし、女性にも必ず入ってもらうという組合せで、ディスカッションをしてもらったのです。

まず講演を聞きます。そして感心したこと、もう少し詳しく聞きたいこと、疑問に思うことの三つに分けてメモを取ってもらい、講演後、グループ内で発表してもらいます。そして例えば「私はここに感心しました」と一人が言うと、他の人から「私はそこでは感心しなかった。なぜあなたは感心したのですか」と質問が出ます。そこで「私はこういう理由で感心しました」と説明すると「なるほど、そういう見方もあるのですね」というような具合に意思の疎通ができるわけです。また、「ここは疑問に思います」という発言に対して別の人から応答があり、そこで解決のつく問題もありますし、皆が「ここはおかしい」と言えば、全員の前で講師に質問し講師が答えるわけです。

とかく日本人は、同じ顔色で同じ言語を話すため、阿吽の呼吸でお互い分かったような気になり、その実は分かっていないというようなことがよくあります。それが、こういうディスカッションを経験することに

よって、まず人の話は聞いてみないと分からないと思う人間が徐々に育つのです。

人間というのは時間や数字によって動機付けられ、頭の回転が速くなりますので、ミーティングの時間、質問の時間、回答の時間は全て何分ずつと決めておきます。そうすると、途中で消化不良になりますので、後は一杯飲みながらということにします。ただしカラオケなどは一切無し。ビールや水割りを飲みながら全員の前で質問します。人間の右脳と左脳とは、アルコールが入ったり、場所を変えたりするとスムーズに行き来をするようになります。そうなると、少し聞いたことも、もっとよく聞いてみよう、それから考えるというふうに思考力が高まってきます。

人間の能力には大きく分けて、能力と思考力の二つがあり、能力とは一般に暗記することで、思考力とは組み合わせることです。日本の文化や教育システムは、能力、すなわち暗記力だけをどんどん高める仕組みになっていて、考える力とか物事を構想、イメージすることが非常に不得手になっています。このことが、今、日本が閉塞状態に陥っている一番大きな理由です。

三　衣食住が足った後に来るもの

話が飛びましたが、警察の一番の目的は治安の維持ということでしょう。憲法の原理で言えば、我々国民は税を払うことによって「主権在民」「基本的人権」「自由」の三つを公的な機関に付託し、国家の仕組みが出来上がっています。例えば外国に対しては外務省や自衛隊に、国内では自治省や警察庁にという具合です。

その中で、枕を高くして寝られるということについては合格点でしょう。ただしこれだけでは、テストの点でいえば七十点以上で合格の七十点だと思います。それでは満点は何かというと、私が冒頭に申し上げたように、国民が楽しく愉快に人生が送れているということです。その前提条件としての治安の維持ということです。枕を高くして寝られても、あれはしてはいけない、これはしてはいけないと、がんじがらめに縛られていては基本的人権も自由も無いわけです。

この満点というのはなかなか難しいのですが、テストでも、七十点で合格だから七十点取ればいいというつもりでやれば、ついつい六十五点を取ってしまいます。しかし、同じやるなら百点を目指そうと思えば、

少々間違っても八十点は取れます。時には九十五点が取れるわけです。初めから高い所を目指すことが一番大事なことだと思います。要は目的は何かということで、そこから発想すればアイディアが出てきますし、いろいろ実験をしてみようという柔軟性も出てきます。

四　人間の欲求の五つの段階

阪神・淡路大震災の時に、被災して途方に暮れている人の話を聞き、適切なアドバイスをする、心理学者やカウンセラーの人たちがアメリカから日本にたくさん来られました。実はこういう分野が、日本は先進国の中で最も遅れています。

先日も中学校の先生方にお話する機会があり、その中でマズローの欲求の五段階説の話をしたのですが、これを知っている先生はわずかでした。人間とは何か。人間の精神構造はどうなっているのかということの根本原理がマズローの五段階説です。これを知らずして、どうして子供を導くことができるのかと私は驚きました。心理学というのは、少なくとも子供の教育に携わる人や対人関係が仕事の中心になる警察官の方にとっては必須課目だと思います。

ここでマズローの五段階説についてご説明します。

第一段階は生理的欲求です。人間はこの世に生まれたら、まず腹一杯食べ、何か身にまとい、雨風をしのぎたい。つまり衣食住を得たい。そして次に自分の子孫を増やしたい。これらは無意識、潜在意識のなかにある欲求です。第二段階が、先程枕を高くして寝るという言葉で説明した、安全欲求。第三段階が、同じ枕を高くして寝るなら、独りではつまらない、家族が欲しい。あるいは人が大勢いる会社で働きたいという集団欲求。第四段階は、同じ働くなら、それなりに認めて欲しい。できたら尊敬もされたいという尊厳欲求。ここまでが「自我」であります。

そして、その上の第五段階が自己実現の欲求です。自分はこのことのためだったら命を掛けても惜しくない。これが自己実現の世界であります。

五　自己実現とは何か

先日、アトランタ・オリンピックを見ていて私は感心しました。十代の若い女性が体操で宙返りをする。頭から落ちれば、首の骨を折って、それから先寝たきりになるかも知れないし、死ぬかも知れない。ところ

が小さいころから一流選手になって檜舞台に立つために、恐怖を克服してトレーニングを続け、ついにオリンピックの舞台に立ったのです。これは自己実現です。

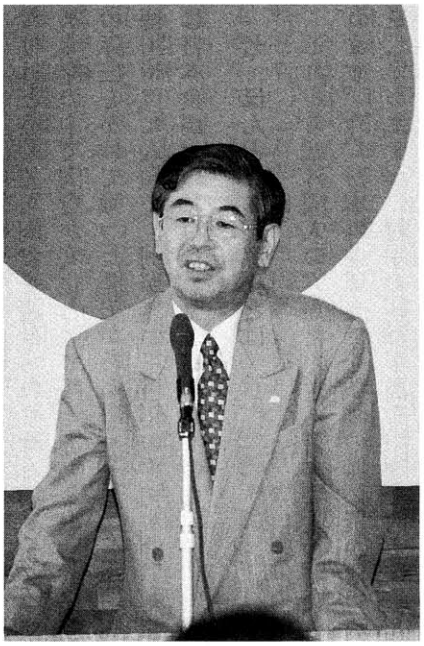
あらゆる生命は、基本的にこういう資質や潜在意識を持っています。例えば、稲の種籾は水分を十分に含ませると中からのパワーによって割れて根が出てきます。種籾は自分の体を壊すことによって、つまり命をかけて根を出し、芽を出します。人間も自分の体を傷つけて新しい生命を誕生させます。それを物理的に壊すのか、意識の中でそうするのか、ここが他の生命と人間との違いです。

では、命をかけて命より大切なものは何か。それは仕事です。それに対して労働というのは衣食住を得るため、そして自分が好きなことをするため、つまり利己であります。創意工夫や技術によって労働時間を短縮して、浮いた時間を何に使うかというと仕事に使うんです。仕事とは何か。この地球というのは、完全なものではありません。それをより完全なものに近付けること、これが人間の業であり仕事なのです。そしてより完全な姿とは、生きとし生けるものが、この世で楽しく愉快に天寿を全うできるような社会です。この創造に関わることこそ仕事であり利他であります。

六　奉仕ということ

奉仕は人のためにするものではなく自分のためにするものです。何故、自分のために奉仕が必要なのか。旨いものを食べたいとか、人から褒められたいとか、地位が高くなりたいとか、人間の欲望にはきりがありません。初めのうちは押さえていても、そのうち押さえが利かなくなり越えてはならない線を越えてしまう。こういうことがバブル以後は一気に社会の表面に出てきました。世界との関係では、日本バッシングから日本パッシングへ、つまり日本叩きから日本外しに変わりつつあります。「相手にするな、そのうち自滅するよ」というのが昨今の流れです。

奉仕は、このままいったら危ないぞという、危機察知能力から出てきたものです。人類という裸の猿が、地球上でこれだけの隆盛を極めているのも、危機察知能力が人間にあったからというのが定説です。そして、いろいろ試行錯誤して危機を克服してきました。最近「Ｏ－１５７」が世間を大きく揺るがしておりますが、こういうことが起きるのは、現在の日本人のものの考



え方、食生活などに基本的な誤りがあり、日本人がどんどん虚弱体質になってきている証拠です。

この前アメリカに行ったときに、昨年の「縁結び世界大会」にご夫婦でお見えになった国連の事務次長さんのセミナーがボストンであり、私も参加しました。その方は、国連の激務の中でストレスから癌になってしまい、医者からもうだめだと宣言されていましたが、たまたま縁あって知り合った久司道夫というボストンにおられる先生の門をたたかれました。

久司先生には、昨年も二回島根県に来ていただいており、癌を克服する食事法などを教えていただきました。先生によれば、病気にならないためには、食べ物を変えることを三十パーセント、ものの考え方と行動を変えることを五十パーセント、そして足の裏のツボに刺激を与えるために早足で歩くことを二十パーセントの比率で実行することが大切なのだそうです。実は事務次長さんはこれを実行され、周囲が驚くほどの回復をされたのです。先生の考え方は「マクロ・ビィオティックス」といい、たくさんの本を出しておられます。また日本人で初めて、アメリカのスミソニアン博物館に研究資料が永久保存されています。

奉仕というのはこの研究のようなことです。人間好きなことをやっていい。ただし、きちんとした考え方に基づいてやる。労働と奉仕を分けてやる必要はありません。飯のタネで、かつそれが良い社会を作ることにつながっていて、お金は相手のほうから取っておいてくれということになれば、それが一番ハッピーな人生であります。警察の仕事は、私が今言ったようなことだけでは到底できないことは、重々承知していますが、基本線をしっかり持つことが大事です。

ところで、久司先生が刑務所や、小中学校などで問

題を起こす凶暴な人たちを更生させるために調査されたところ、ほとんど例外無く食事に問題があったそうです。それが日本古来の穀物を中心にした食事形態にしてみると、凶暴な人達が段々変わっていった。このような症例がたくさんあるのだそうです。

私もいろいろ自分で研究してみました。肉食の多いアメリカでは、健康問題を含めた様々な社会問題の対策として、食事を変えようという運動が現在非常に大きなうねりになっております。これからは穀物を中心として、そこに魚介類を少々加えた食事が世界の主流になると思われます。ただし瞬発力の必要な戦闘要員だけはどうしても肉食を避けられません。アングロサクソンの中で肉食が文化として残っているのも、民族の存亡をかけて戦った歴史があるからです。また逆に、徳川時代に人類史上例が無い三百年の平和が続いたのは日本食が大いに貢献したといわれています。

七　ほんとうの国際化とは

これからは外国人の方がたくさん日本に入って来られます。今、日本は地球上でも類例の無い豊かな生活をしていますが、対岸の朝鮮半島や中国で何らかの問題が起きるのは時間の問題です。それに対して日本はどう役割を果たすのか。逃げることは許されません。

去年、私はベトナムに行ってまいりましたが、驚いたことにベトナム人が一番好きな国民はアメリカ人だそうです。何故、あれだけの戦争をしながらベトナム人がアメリカ人を信頼できるのか。それは南ベトナムが戦争に敗れたとき、アメリカが約二百万人の人達を引き取って、その人達に自由と働く場とチャレンジする機会を与えたからです。その時日本が受け入れたのは、おそらく数百人程度でしょう。今、日本の経済団体は皆復興するベトナムへ目を向けていますが、パートナーとして信頼してもらえるでしょうか。

韓国に行きますと、独立記念館というのがあり、日本の戦前、戦中にかけてのいろいろな行為を再現した人形や日韓の教科書などが多数展示されております。これは日本の閣僚の暴言や教科書問題などが発端となり、国民総参加で寄付が募られて建てられたのです。ここには日本の観光客や使節は、ほとんど行っていませんが、私の会社からは約五十名の社員が何回かに分けて勉強に行かせていただいております。また日本では報道されておりませんが、中国でも南京大虐殺や細

菌部隊の残虐行為を展示する施設が主要都市に次々と建設されております。

今は円がなんとか百十円ぐらいで保っておりますけれども、これが百五十円、二百円となったときに、日本の中で一体何が起きるかということをいろいろな角度から検証しておく必要があります。つい先日も、ある閣僚が武装難民が日本に来たときに市街戦が起きる可能性があるという発言をして問題となり、あちこちに陳謝をしていました。しかし、私はそれぐらいのことは当然想定しておかなければならないと思います。

現状は、先の県内での密航事件や阪神・淡路大震災などによって、日本の危機管理システムがどうなっているのかということが広く知れ渡りました。これは、警察や官僚だけがどうこうという問題ではありません。そういうことを未然に防ぐ備えは必要ですが、まず相手の国民から信頼され、パートナーとして認められるような日本の国民をどうやって作るかというのが最大の眼目です。そして片方で、何か起きた時の対応を真剣に議論する必要があります。

日本の、特に官僚の世界では本音と建前の使い分けが蔓延しております。ヨーロッパのアングロサクソンの世界では、最も大事なのはフェアであるということです。嘘をつく奴が一朝有事の危機を招く、だから普段から生かしておくなというのが鉄則です。中華系の中では韓国を含めて恩を重視します。恩を知らない奴は、普段は生かしておいて利用し、一朝有事のときには真っ先に血祭に上げる。日本は恥の文化で、人に恥をかかす奴は許さない。村八分にする。

最近の日本はというと、嘘はつくは、恩は知らんは、恥も知らない。こういう人間や集団は、手を下すも汚らわしい。自滅するようにもっていくしかない。これが日本を見ている世界の潮流のはずです。いかにして、この潮流から日本を再生させるか。

八　人類共通の目的

私はこれから日本の歴史始まって以来の、大きな災難が国の中から起きてくると思います。ローマは蛮族によって滅びたのではなく、国の中から滅びたのです。治安を守るということは大変重要なことですが、それと同時に、そういうことが起きないような、楽しく愉快に暮らせるような国家や地域を作るためにはどうすればいいか。これを立場を越えて議論し、そして明確

な共通の目的を作らなければなりません。

これは日本だけでなく世界人類共通の目的になるもので、これが「縁結び世界大会」のコンセプトであったのです。衣食住が足りないところには足りるような国や地域になるように、基本的には技術で支援をする。同時にそれが足ったところでは、いかにして楽しく愉快な人生を送れるようにするかを考える。

日本人は中国の残留孤児の問題など、やらなければならないことを、まだまだたくさん残しております。そういうことを、これから一つひとつ解決していかなければ、日本は世界の孤児どころか、周辺にも助けてくれる人がいなくなります。特にこれから一番恐ろしいのが円安と石油危機、それに連なる食料危機です。こういう危機には、はっきり言って打つ手はありません。これに対して、いかに早く体制を作り上げるか。官僚を叩くだけでは問題は解決しません。それぞれの役割、立場を越えてお互いに議論し、世界共通の目的、つまり、地球がひとつの家族になるようなことを目指す。それを具現化するためにはどうすればいいか。

目的は、理念と方針で成り立っています。理念というのは、真理と想念。真理は誰が聞いてもそうだということ、想念は相手の心と今の自分の心が一致することです。こういう社会を創造しようと決めたら、自分達のできることは何かということを考える。そしてこうやろうじゃないかと呼びかける。これがリーダーの役割です。また普通だったら相矛盾すること、相反することをどうやって統合していくか。これも、リーダーがやるべきことで、これが方針であります。

ただ呼びかけて、やろうということになっても、だいたい長続きしないことが多い。それを持続させるためには弘法大師がやられた方法が有効で、目的を絵にするのです。そしてそれを数字に置き換え、これが目標になります。世界共通の目的はひとつですが、それを達成する手段としての目標は星の数ほどあります。

日本人は「羹に懲りて膾を吹く」ということがあります。単一目的と言うと「昔、日本は単一目的でやってえらい目にあった。だから価値観は多様化する方がいいんだ」とすぐ思ってしまう。しかし、ここで私が言う世界共通の目的とは、誰が聞いても反論の余地が無く、自然環境ともきちんと共存できるようなものです。それを具現化するための目標はそれぞれの立場、役割によって違いますので、それぞれ明確にしておい

て、それに関わる人、関わらない人を分かるようにしておきます。

目的を絵にして数字に置き換えると言いましたが、数字とはお金であり時間であり頭割りであります。そしていかに短期間で最小の費用で目標を達成するか、そのための組織、計画、施策はどうあるべきかということを考えます。施策というのは人間それぞれが持つ欲望を認めて、その欲望を満足させながら、結果として目標がスムーズに実現できるという手法です。例えば賞を出したり、権威付けをしたりすることです。こういう方法で、もう一度日本のあらゆる仕組みを根本から考え直し再構築する必要があります。これをそれぞれの職場や地域において考える。私は、二十一世紀がおそらく日本の民主化の始まりだろうと思います。

九　権力の責任

ところで島根県の経済の大半は公共工事によっています。税金で公共的な施設を作ることによって経済を運営する。これは社会主義システム以外の何物でもありません。島根県は公共工事が圧倒的に民間工事を上回っているわけですから、これは自由主義ではないと言われても仕方ありません。だから悪いと言っているわけではありません。ただ、この場合の弊害は思考能力が著しく低下するということ。そしてひたすら我慢することを覚えます。そういう社会システムの中で生きていくためには我慢するしかないわけです。そういうことを避けるためにも、もう一度原点に帰り、楽しく愉快に人生を送れる島根県に、中国地方に、日本にするためにはどうしたらいいのでしょう。

一番の根本原理はウォルフレンが言う説明する責任です。権力を行使する者は、なぜそれを行使するのかを、被権力者にきちんと説明し、それから行使しなければならない。私も役所その他のいろいろなところと折衝しますが、根本の責任、原理を忘れた人がいかに多いことか。特に、権力や国家資格というものを履き違えると、戦前の軍部の行動と全く同じになってしまいます。とかく同じ組織の中に長くいると、それが当たり前になって自分で異常に気がつかない。こういうことを申し上げるのも、権力側にいる人達にとって自分の立場を考えることは非常に難しいからです。

おわりに

「衣食住が足った後の警察の役割」

先程言いましたように、いろいろな人の話を聞いてディスカッションをする。そして、良く理解できないことは考える。考えて分からないことは人に聞いてみる。それでも分からなければ本を読んでみる。それでも分からない時はどうするか。それは置いておけばいいんです。一度良く考えてみたことは「頭の中の貯金」になるからです。そうしておけば、一を聞いて十を知る、つまり何かのヒントを得たときに「ああ、そうか」と次々と分かるようになってきます。学問というのは、知識ではありません。問うことを学ぶことです。

楽しく愉快に生きれる人間をいかにたくさん増やすか。それは真理の追求とそれを具現化するためのディスカッションや学問を通じて初めて可能になると私は思います。そしてこれは死ぬまで継続するのです。

話があちこちに行きましたが、どうか今日の私の話がひとつのきっかけとなって、大いに開かれた警察になっていただきたいと思います。そしてただ単に慕われるだけでなく、国民や県民が安心して暮らせる社会にしていただきたいと思います。

そして皆様方も、たくさんのエピソードを住民の方からいただいた。仲間からも貰った。本当に自分は島根県警に勤めて良かった、本当に俺の人生は良かったと言えるような、そういう人生を是非警察業務を通じて送っていただきたいと思います。大変口はばったいお話をいたしましたけれども、これで私の話を終わります。御清聴大変ありがとうございました。